

オオバギボウシ

漢字で書くと大葉擬宝珠。葉の大きさと、同じユリ科のウバウリと首位を競いあっています。花の色は純白から薄紫までの変異があり、ハイヅカ湖周辺のものには概して色が薄いようです。山すそや川べりなど、湿ったところに自生しています。新芽は山菜として知られ、ウルイなどと呼ばれます。



温井ダムに勤務していたころ、オオバギボウシの群落を探したことがあります。広島市植物公園の学芸員で、当時しばらく市の農林振興センターへ転出されていた S さんからの依頼です。滝山川沿いに点在する株は目にしていたのですが、群落は見たことがありません。でも、普段見えないところを探してみると、数百株の群落が見つかりました。

吉報を知らせると、S さんがセンター周辺の農家のみなさんを引き連れてやって来ました。農作物の新規開発チームです。すでに種子からたくさんの苗を育てているけれど、収穫までには 2～3 年かかるので、出荷技術の研修のため、成長しきった株が欲しいということで、掘り取って持ち帰っていただきました。水没予定の植物が、有効に生かされたことになります。

数年前から、プランターで数株のオオバギボウシを育てています。いつか新芽を食べようと思ってのことですが、まじめに増やしていないので、現状維持がやっと。おあずけ状態です。